

6. 医学部、医学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 18)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 19)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 令和元年度に第 24 期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン「学術大型研究計画」において、医学研究科より 2 課題が採択された。1 つ目は、『AI・データ駆動型創薬・医療の研究開発拠点と利活用ネットワーク体制の構築』である。上記計画では、AI・ビッグデータ・シミュレーションを駆使することで医薬品開発が直面する問題を克服し、それらの開発を加速する拠点形成を目指しており、医学研究科を中心として、国内の主要研究機関との連携ネットワーク体制の構築を進めている。2 つ目は、『母子保健情報と学校保健情報の連結と、健康寿命延伸や母子保健の向上および生活習慣病予防への利活用』である。上記計画では、全国各地の自治体と連携し、これまで破棄されてきた母子保健情報と学校健診情報を匿名化した上で、デジタル化を行い、データベースを構築する取組を進めており、地域の福祉に貢献すると共に、予防医療や難病への理解のための基盤とすることを目指している。
- 平成 29 年度に大学が指定された、指定国立大学法人の枠組みの下に、海外の大学や研究機関等との協同による現地運営型研究室である「On-site Laboratory」が定められ、医学研究科では平成 30 年度に 2 拠点が認定された。1 つ目は、イタリアのがん分子生物学を専門とする研究施設である IFOM (The FIRC Institute of Molecular Oncology) との国際共同研究促進を目指し、大学構内に設置された「IFOM-KU 国際共同ラボ」である。2 つ目は、カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 構内の Center for Novel Therapeutics に設置された「京都大学サンディエゴ研究施設」である。UCSD との共同研究だけでなく、現地周辺企業との共同研究やベンチャー支援促進を視野に入れ、施設運営を行っている。ベンチャー支援に関して、令和元年度に UCSD 構内にて京大発ベンチャーと投資家や製薬企業とのマッチングイベントである「京都大学ライフサイエンスショーケース@UCSD 2020」を開催した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、27件、5件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。